

All about 海外大学院

文責：板倉亜沙子

1. 大学院概要（アメリカの一般的な理系大学院について）

● 学位

学部卒業後の学位として Master's degree（修士）と Ph.D degree（博士）が存在しますが、いわゆる「理系研究職」を志す人は Ph.D コースを選択するのが一般的です。また、学部卒の学生も直接 Ph.D コースに入学できます。コースに所属する学生の経歴は多種多様で、学士・修士を取得したばかりの人、テクニシャンとしてラボ経験を積んだ人、企業に勤めていた人など、あらゆる方面から学生が集まります。基本的に学位取得ごとに環境を変えるのがアメリカ流なので、国内各地・世界各地から新たなメンバーが顔を合わせることとなります。

● Ph.D コース

卒業までの期間は人それぞれ、分野によって大きく差が出てきます。早い人は 4 年、長いと 8 年あるいはそれ以上かかります。

－1～2 年目

はじめの 2 年は研究よりも授業に重点が置かれ、1 学期に複数の科目を履修します。1 科目につき週に 2、3 回の講義（60～90 分/講義）に加えて問題演習や関連分野の論文が与えられ、体系的な知識を得られるようデザインされています。ディスカッションやプレゼンテーションの機会もたくさん与えられます。1 年目の終わりに Comprehensive Exam という到達度を計るテストが設定されている場合もあります。

さらに 1 年目はラボローテーションというシステムが存在し、学生は 1 学期ごとにラボを転々として最終的に所属するラボを選定することになっています。プログラムによっては Teaching Assistant(TA)が必修単位に組み込まれていて、教授のサポートや授業の運営を任せられます。

2 年目の終わりには Qualifying Exam という難関が待っています。これは、公式な Grant proposal(研究費申請)のスタイルに沿って研究発表を行うというものです。何ヶ月にもわたる準備期間を経て試験にパスすると、晴れて Ph.D candidate となります。この試験に落ちると 3 年目以降の課程に進学することはできません。

－3 年目以降

ようやく全ての時間を研究につきこむことができるようになります。数年かけて自分のプロジェクトで成果を出し、博士論文をまとめて Defense(論文審査会)をパスすると、

ついに Ph.D を取得できます。

- ラボ

日本のように研究テーマごとに研究室があるのではなく、教授の名前がラボの名前です。大抵の教授はいくつもの研究プロジェクトを抱えていて、政府やプライベートの財団から研究資金を調達しています。

- 経済的サポート

ラボの教授が申請した研究費にはメンバーの給料も含まれています。学生は Research Assistant としてプロジェクトに参加しているという扱いになり、きちんと学費・生活費をサポートしてくれます。特定のラボに所属する前（ラボローテーション中）はプログラムからのサポートが受けられたり、成績の優秀な学生に大学内・外からの奨学金がついたりする場合があります。つまり大学院生である限り経済的な負担はほとんどありません。

- 学生生活

学内外の教授を招いたセミナーが頻繁に行われます。テーマ別の Journal club (論文紹介ゼミ)には色々なラボから有志が集まり、熱い議論が交わされます。こういった場にはどこからともなくピザやドーナツが登場したり、カジュアルな立食パーティーを伴うことが多いです。

- 卒業後

企業・研究機関へ就職する人、アカデミアに残る人、起業する人 etc.

2. 受験準備

海外の大学院は一斉試験を行いません。提出された複数の書類をもとに選抜され、面接を経て最終的判断が下ります。以下に簡単なプロセスをご紹介します。

- 志望校選び 早めに!
行きたいラボ、専攻分野、経済的サポート、周囲の環境など、自分なりの優先順位を決めて志望校を絞り込みます。応募前に出願校内の教授とコンタクトを取っておくよう要求される場合もあります。

- アプリケーションに必要な物をそろえる ~11月
 - ーTOEFL 現在は iBT が主流です。プログラムの募集要項に足きりラインが発表されていることが多いのでそれ以上の点数獲得を目指します。

 - ーGRE (General/Subject) 応募するプログラムによってはSubject を要求しないところもあります。(Subject の試験は開催場所も開催日も非常に限られているので注意が必要) スコアは ETS という機関を通して直接大学院にレポートされます。

 - ーGPA 大学での成績総合スコアを換算して提出します。

 - ーエッセイ (Statement of Purpose) 自分の今までの成果、これからの意気込み/抱負/研究方針や、プログラム/希望ラボに所属したい動機などを熱く語ります。

 - ー推薦状 (Recommendation Letters) 通常3通。応募者のことを知る人、その分野で名前が知られている人からの推薦状をそろえます。

- 応募書類提出 12月~1月 オンラインまたは郵送にて。

- 面接 1月~3月
現地に召集される場合は数日間大学に滞在し、複数の教授との面接がセッティングされます。(キャンパスツアーや在学生とのパーティーなどのイベント有)
電話面接の場合、日本の固定電話(自宅やラボなど)を通して面接官と30分~1時間ほど会話をします。自分の研究実績、興味のある分野、将来ビジョンなどを聞かれます。

- 合格通知 1月~4月 進学する大学院を選択します。

- 奨学金応募 7月～12月(出願書類準備と同時進行)
 - ・伊藤国際教育交流財団 <http://www.itofound.or.jp/>
 - ・村田海外留学奨学会 <http://www.muratec.jp/ssp/>
 - ・中島記念国際交流財団 <http://www.nakajimafound.or.jp/>
 - ・平和中島財団 <http://heiwanakajimazaidan.jp/>
 - ・船井情報科学振興財団 <http://www.funai.or.jp/>
 - ・JASSO http://www.jasso.go.jp/scholarship/long_term_h.html
 - ・CWAJ <http://www.cwaj.org/Scholarship-/scholarship-j2010.htm>(女性のみ)
 - ・奨学金情報 日米教育委員会 <http://www.fulbright.jp/study/res/shokin.html>

- ウェブサイト
 - ・UT-OSAC <http://ut-osac.org/>
 - ・カガクシャネット <http://kagakusha.net/>
 - ・理系留学のススメ(是永淳さんのサイト) <http://jun.korenaga.com/>
 - ・日米教育委員会 <http://www.fulbright.jp/>
 - ・研究留学ネット <http://www.kenkyuu.net/>

- ・大学院留学メーリングリスト 興味のある方は↓こちらからご登録ください
<http://groups.google.com/group/interest-in-graduate-study-abroad?pli=1>

- ・米国大学院学生会 <http://gakuiryugaku.net/>

米国大学院学生会は、学位留学を志す日本の学生を支援するため、アメリカで学ぶ留学生・留学経験者有志によってつくられた団体です。以下の三つを、私たちの柱とします。

 - 留学説明会 - 今回のような留学説明会を、日本全国で定期的で開催されるような仕組みを作っていきます。
 - メンタープログラム - 学位留学を志望する日本の学生に対し、留学経験者がマンツーマンのメンターとなり、エッセーの書き方や留学準備についてアドバイスをします。
 - ニュースレター - 留学経験者が、学位留学の体験談や研究紹介、自分の大学の自慢などを、メーリングリストへ定期的に配信します。

詳細はホームページ・メーリングリストにて告知します。ホームページ(<http://gakuiryugaku.net/>)より、メーリングリストへご登録ください。